



## 何を伝えたいから？

まもなく秋休み、そして後期が始まると中3は進路を具体的に絞っていく時期となります。10月5日のスクールフェアに続き19日の公立高校進学相談会を有効に利用してください。もちろん模試などを参考にして自分の実力を確認しながらになります。まだまだ余力はありそうです。成績が一気に伸びることを期待しすぎてはいけません。ジワジワと成果は出てくるものです。今回の中学校での実力テストでも、英語で100点を取った中3がいます。定期テストとは違って初めて聞くリスニング問題、初めて読む英語長文など幅広い範囲のテストでなかなか満点は取れないもの。もちろん彼は帰国子女でもありませんし、小さい頃から英語を習っていた訳でもありません。でも英語がコミュニケーションの道具だという意識を持って3年間コツコツとやってきた結果でしょう。

さて、でもまだ英語が苦手だという皆さんに広島県立西条農業高校の生徒たちの例をお伝えします。この高校は平成24年度に全国の農業高校で初のSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定を受けました。普通科の進学校ではないのでもともと英語の苦手な生徒たちが多かったようです。しかし、多くの人前で自らの研究成果を発表し、そして時には英語でプレゼンするという経験を積み重ねることで大きな自信を得、教員が期待していた以上の成長を見せているそうです。「本校の強みは、生徒一人ひとりに伝えたい内容があるということ。時間をかけて取り組んだ研究をより多くの人に伝えたいという思いが、英語に一生懸命取り組む原動力になっている」と校長先生が語っています。この塾でもどうしてもやりたいことがあって、普通科ではなく大網高校の農業系へ進んだ女子生徒がいます。専門科目や実習に頑張っている話を楽しそうにしてくれます。

現在の中学英語の教科書では章と章の間に必ず会話のページがあって、これがあまりにも空虚な会話表現と思われることがあります。ここでつまらなくなる人がいても決して本人のせいではありません。「伝えたいことがあるから語学を学ぶ」のが本来の姿ですから！